



中央ウェイ

10月号

より良い「学び」を目指して

指導教諭 山崎 亜矢

指導教諭の山崎亜矢と申します。昨年度立川ろう学校から本校に異動して参りました。高等部で国語を指導しています。指導教諭という職は、何をしているのか分かりにくいのではないのでしょうか。指導教諭の主な仕事は、各種研修会の講師、校内校外を問わず研究授業の観察と助言、授業で困りごとがある、悩んでいるという相談があった場合に一緒に考え、よりよい授業づくりをすることです。加えて年間4回他校の先生方をお迎えして、授業を公開しています。

指導教諭になって9年目、教員になって二十数年があつという間に過ぎました。これまで私は何時間国語の授業をしてきたのだろうとふと気になり計算してみたところ、少なくとも1万時間以上授業をしてきたことが分かり、自分でも驚きました。授業をすることは生徒一人一人の人生の大切な時間を共有すること。日々授業をすることの責任の重さを感じています。それと同時に生徒の学びの深まる過程を間近で見たり、時には私も議論に加わり生徒と共に考えられたりすることを幸せに思います。

以前このようなことがありました。太宰治の「葉桜と魔笛」を指導した際、生徒から「なぜ聞こえるはずのない口笛が姉妹に聞こえたのか、気になるので皆で考えたい」という要望があり、授業中に話し合いました。質疑応答を繰り返す中で、自分の考えの根拠を確かめるために、もう一度最初から丁寧に文章を読み返す生徒もいれば、他者の意見の良さを認め、自分の考えと比較するなどして、考えを深めていく生徒もいました。最初のうちは、話し合うのはあまり得意ではないと言っていた生徒も、少しずつ自分の意見を述べるようになり、一人一人の間にも深まりが見えるようになりました。

最近のことです。学習後の生徒の感想文に「一人で読んだ時は分からなかったけれど、みんなで読んで考えたらよく分かった。」という言葉がありました。生徒同士の「対話」の大切さが伝わる言葉です。これに加えて、私は生徒と教師の「対話」、書物との対話、そして自分自身との「対話」のある授業をつくりたいと思っています。自ら「なぜだろう」という疑問をもち、粘り強く考え続ける、そして「対話」を通して答えにたどり着くという学びは、一見まわり道のように見えます。けれども、このような学びは大学進学後も、社会人としてなってからも生きて働く力になると思います。

令和6年度東京都立大塚ろう学校と本校が主管校となり、日本最大規模の聴覚障害教育の研究会である全日本聾教育研究大会が東京で開催されます。大会のテーマは「新しい時代の聴覚障害を考える～子どもたちが豊かな人生を自ら切り開くために」です。本校では大会テーマを受けて、「意欲を持ち、学びを深め、探求する生徒の育成を目指して～自ら問いを立てる、他者から学び考える～(仮)」というテーマを設定しました。各教科の特性を踏まえ、本校の生徒にどのような力を身に付けさせるのか、具体的などのような手立てが必要か、授業改善を中心として研究を進めていきます。まだ始まったばかりですが、生徒に還元できるよう研究を進めて参ります。

学校での様子

8月24日(水)～26日(金) 高等部卓球部

第71回関東聾学校卓球大会

8月24日～26日にひらつかサン・ライフアリーナで第71回関東聾学校卓球大会が開催されました。今年度の卓球部員は4年生のみであるため、皆をまとめ、リーダーシップを発揮する先輩がいません。そんな中で力を合わせお互いに励まし合いながら、練習を重ねてきました。初めて大会に出場する部員もいる中で、勝敗に関係なく得るものがたくさんある意義ある大会になりました。この経験を今後の練習に生かし、様々な大会に向けて技術・チームワークに磨きをかけてほしいと思います。



8月30日(火) 大学生講演会・交流会

8月30日、本校卒業生を中心に14名の大学生に集まっていたいただき、大学生講演会・交流会を開催いたしました。対面での開催は3年ぶりとなりましたが、後輩の参考になればと有志が集まり、それぞれが所属する学部の特徴を「SDGs」というテーマに沿って紹介してくれました。本校中高生は身近な先輩の話を見つめ、アットホームな雰囲気の中で進学への不安や準備すべきこと等の質問をし、実りある交流ができました。

9月17日(土) 中学部オープンキャンパス

9月17日(土)、小学6年生を対象にした中学部オープンキャンパスを開催いたしました。参加者は児童、保護者、先生で合わせて約80名でした。全体会は体育館で行いました。校長挨拶、中学部の概要と授業動画、今年度実施の入学者決定(入学試験)の流れについての説明、生徒会の役員が登場するPR動画の視聴がありました。その後、5つのグループに分かれて、部活動を含む校内見学や体験授業がありました。参加者からは「入試の流れが分かった」「体験した授業が分かりやすかった。」などの声が寄せられました。

